

令和4年度 第1回宇治市男女共同参画審議会の会議録（要約版）

日時	令和4年8月24日（水）午後1時30分～3時
場所	宇治市生涯学習センター2階 一般研修室
出席委員	桂会長、藤本副会長、居原田委員、中本委員、長谷川委員、浜野委員、日野委員、山崎委員、
事務局	伊賀人権環境部長、前田人権環境部副部長、藤井男女共同参画課長、二木男女共同参画課主幹、野田男女共同参画課専門員
議題	<審議事項> 宇治市男女共同参画計画 第5次UJIあさざりプラン令和3年度実施状況等について
傍聴者	なし

会議経過及び内容

（オンラインと会場の併用で開催）

1. 部長あいさつ
2. 議事

事務局より「宇治市男女共同参画計画 第5次UJIあさざりプラン令和3年度事業実施状況等報告書」について説明し、委員から次のとおり質問や意見が出された。

主な質問・意見等

●12ページの女性のための相談の中で、予約のいない電話相談を実施している。新型コロナの影響もあるかと思うが、相談の中身はどんなものであったか。

⇒予約のいない電話相談と臨時相談を合わせると140件となった。離婚、DV、が多いが。最近、親子関係の悩みが多くなっており、新型コロナにより長時間自宅にいることの影響があるのかもしれないと考えている。

●予約のいない電話相談は相談のハードルが下がっており、良い事業をされていると思うが、これは続けていくのか。

⇒令和3年度から相談の体制を強化しており、相談担当の女性問題アドバイザーを1名配置し、加えて以前から相談コーディネーターを配置しており、体制を強化した。今後も続けていく予定である。

●エンパワーメント支援セミナーは、令和4年度から実施するのか。ケアが必要な方の自助グループというのはあると思うが、トラウマケアの読書会とはどういうものか。これから企画される

のか。

⇒エンパワーメント支援セミナーは、毎年題目を変えて実施している。令和3年度は14ページの表の一番上にあるように防災関連セミナーを実施した。令和4年度は、トラウマケアの講座を実施する。トラウマケアの読書会は、京都市で既に実施されており、本市でもやってみようと企画したものである。

●男性相談は実施している市は少ない。相談件数の37件はどんな内容だったか。労働や雇用の相談はあるか。また相談カードはどのようなところに置かれているか。

⇒相談内容は夫婦関係が一番多くなっている。1人暮らしでさみしい、精神疾患のある方、男女のトラブルの相談、女性に比べると様々な相談である。労働関係の相談はあまりない。カードは公共施設の男性トイレに設置している。

●ゆめりあの1階から、3階に場所が変わって、肌感覚で感じておられることを聞きたい。男女共同参画課が1階にあった時は、市民の目線からすると明るくて良かったと思う。観光も大切だと思うが、良かった点、悪かった点を教えて欲しい。

最近ニュースを見ていると男性の犯罪が増えている。男性への支援が必要だと思う。男性向けのセミナーを実施したりと苦労しながら頑張っている。どんな方がどのような目的で来られているか、把握できていれば教えて欲しい。高齢の年代では男女共同参画というのは難しいが、広い世代に教育していくことが大切である。

小学校や中学校の総合学習の時間などに男女共同参画を学ぶことが大切である。小中学校にはどのようなアプローチをされているか。

⇒1階に男女共同参画課の事務局があった時は、気軽に声をかけていただいていたが、現在1階は観光振興課と観光協会となっている。ギャラリーステップワンの展示スペースでは、観光振興課と、男女共同参画課で応募いただいた個人や団体にも展示をしていただいている。新型コロナウイルスの影響でセンターの利用人数は減っているが、3階でお声かけもいただいている、引き続きご利用をいただいていると感じている。1階にあった方が良いという意見もあるが、引き続き3階で頑張っていきたい。

男性の支援について、私どもも同じ認識で講座を企画した。子育ての講座なら人が集まるかと考えて1回目に発達段階に合わせた子どもの関わり方の講座を、2回目は男性の生きづらさ、3回目は男性のコミュニケーションに関わる講座を実施した。1回目は子育てに関心がある方、2、3回目生きづらさを感じておられる方が参加されたと考えている。男性は参加しづらいのか、コロナの蔓延もあり人が集まりにくく、2回目以降はオンライン併用で実施したところ参加者も増えた。この審議会でも男性の生きづらさが話題になっており知ってもらいたいと実施した

もの。今年度も実施予定である。

小中学校での学習について、中学校については男女共同参画ハンドブックをこれまでから作成している。中学校3年生全員に配布をしており、道徳の授業で実施しているところが多いようだが、全学校で実施してもらっている。昨年度には、教育委員会と協議し、改定を行った。性暴力、ジェンダーギャップ指数、LGBT等性の多様性のことについても新たに追加した。HPにも掲載したので確認いただける。小学生向けには取組ができていないが、府が小学生向け冊子を作っており、それを使用して何かできないかと考えている。

●男性の生きづらさが、もしかしたら家族や女性や子どもに影響を与えることも多いのではないかと。女性が輝けるためには、男性も同じように輝ける社会にしないといけない。女性の生きづらさや悩みが多いなら、男性も生きづらさや悩みが多いのだと思う。

●リズムでの発信やいろいろな講座をされているが、昨年度の男女共同参画週間 UJI のつどいに出演したツペラツペラの2人が7月にテレビに出ていた。夫婦の絵本作家で、非常に良い講演をされたと思う。大人対象だったが男女の参加具合はどうだったか。定員を上回る参加があったと思う。

⇒Zoomも併せて参加者は81人で、うち男性の参加者は14人であった。もともと6月に実施予定であったのがコロナで9月となり、さらに延期となって1月にやっと実施できた。

●ツペラツペラの講演会にZoomで参加したが、小学3年の子どもと一緒に見ることができた。現地に行かなくても、子どもがいても参加できるのがよかった。コロナでたまたまZoomになったかもれないが、コロナでなくてもZoomで参加できるとよいと思う。

●基本方向4の安心安全に関して11ページ⑳にリプロダクティブ・ヘルス・ライツがあるが、13ページの上の事業にはリプロダクティブ・ヘルス・ライツは出てこない。どのように落とし込まれているのか。

⇒リプロダクティブ・ヘルス・ライツの取組については、女性の健康セミナーの中で実施している。今回は更年期を取り上げた。事業としてはこの事業でどのような発信していけるかと考えている。

●リプロの概念を広くとらえると、健康問題も入ってくるが、絞り込むと性、望まない出産等の課題が出て来る。年度が変わるとフォーカスするテーマが変わるのか。

⇒女性の健康セミナーは年度ごとにテーマを変えているので、今後どのようなことが効果的なのかは見据えて検討していきたい。

●今後のための提案として、リプロダクティブ・ヘルス・ライツは幼少期からの教育の推進に関

わると思う。基本方向1の幼少期からの教育の推進の中で、中学生向けのハンドブックがあるが、性暴力がリプロダクティブ・ライツに密接にかかわると切実に感じている。若年期から浸透させていくことが重要である。特に性的同意は、若年の中学生くらいから啓発していくことが重要だ。中学生向けハンドブックに性暴力を盛り込まれたので、そこに関連付けてリプロダクティブ・ヘルス・ライツを広げていく必要があると思う。

●新聞で子どもの性暴力の特集を組んでいて、障害を持っている子どもたちの暴力の問題がとりあげられており、性的同意が非常に重要だと思う。幼少期の子どもたち、特に障害を持った子どもたちに対しての、リプロダクティブ・ライツや性的同意の問題の啓発をスタートしていく必要があると思う。

●話題としては扱いにくい、中絶の問題等課題は多くあるので、盛り込んでいただけたらよい。障害を持っているお子さんへの性暴力は海外では法的な強化をされたと聞いたことがある。自己決定の問題等沢山の議論が要ると思う。大切な問題である。

●7ページの教職員向けのセクハラ研修は、アドバイザーの活用がなかったと書いてあったり、もっと活発にしようという考え方なのか。アドバイザーを派遣しなくても研修内容が充実していればよいと思う。アドバイザー派遣の件数が増えたらいいというわけではない。相談件数についても増えたら良いというわけではないから、評価の方法を考えないといけないと思う。例えばコロナの影響で評価が低いというのとはまた違うのでA B C D評価というのは難しい。苦労はされていると思う。

●基本方向3の⑩認知症総合相談支援事業、食育事業への男性の参加者は、参加者は男性の参加者か。

⇒男性の参加者が60人で、全体では310人参加したとのことだった。認知症の方は男女別の数はカウントしていないとのことである。男性が少ないわけではなく、認知症になられる方は女性が多いので、夫婦で来られることが多いと聞いている。

●自由記述は毎回参考になる。21ページの上から7番目の男性の、まずは企業から変えないと進まない、厳しい意見だが、重要である。全体的に取り組みをされているが、雇う側への施策は消極的な印象である。市内事業者への情報発信や労政ニュース発行事業等が該当すると思うが、もう少し、働かせる側が働かせ方をどう変えるかというきっかけづくりが必要ではないかと思う。

●起業をして成功している方の話が聞きたい、女性で子どもを育てながら正社員で働き、実家に頼らず仕事をしている人の話が聞きたいという意見は、そのような話を聞く集まりを作ったなら、それが広がっていくのではないかと。

⇒企業への働きかけはとても大切と考える。産業振興課や商工会議所と連携してどういうことができるか、また府でもいろいろな制度を作っている。男女共同参画課のみでできるものではないため、連携をしていきたい。身近で充実した仕事をされている方の話を聞くセミナー等は検討していけたらと考えている。

●いろいろなネットワークでやっていかないといけない。自由記述の中で、参加する、しないの問題ではなく、行く手段がないという人がいる。オンラインのツールを入手しにくい人も多い。宇治にはコミュニティセンターがあるが、公民館や市の施設を活用してイベントをやるのは難しいのか。

⇒出かける事業としては、ココからチャレンジ相談を年に2回地域に出向いて子育てひろばで実施している。それ以外の事業は男女共同参画支援センターの周知の意味もありセンターで実施するようにしてきた。地域に出かけるというのは検討が必要かと思う。

●情報過疎地があり、遠い地域の方が置いていかれてしまう。やれるところからやっていかれてはと思う。

●戦争が終わらない現状を目の当たりにして、改めて人権の大切さを世界中の人が感じていると思う。人権の学習をもっともってもらわないといけない。子どものころから、私たちも人権感覚を学ばなくてはいけない。男女共同参画も根底にあるのは人権である。人権に対する学びや研修をより充実させてほしい。